



「羅針盤」と「命綱」

いつも本校の教育活動に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、近年、小学生の間でもスマートフォンやタブレット端末、そしてSNSの利用が急速に広がっています。これらは非常に便利で、子供たちの世界を広げる可能性を秘めている一方、一歩使い方を誤れば、大きなトラブルに巻き込まれる危険性をはらんでいます。本校においても毎年高学年生を中心にスマートフォンの使い方や、SNSの危険性については学習会を開催しています。

特に最近、全国的にも、そして本校におきましても懸念しているのが、「子供たち（友達同士）の間でのSNSトラブル」です。オンラインゲームのチャット機能や、グループでのメッセージ交換などにおいて、「文字だけのやり取りによる誤解」から、仲の良かった友達との関係が突然崩れてしまうケースも後を絶ちません。表情や声のトーンが見えない文字の世界では、本人は冗談のつもりで使った「バカ」「しつこい」「もう来ないで」といった強い言葉が、受け手には想像以上の凶器となって突き刺さります。また、特定の児童をグループから外したり、裏で悪口を書き込んだりといった、大人の目が届かない場所での「見えにくいじめ・孤立」へと発展する事案も深刻化しています。これらは、学校の教室の中だけでは決して見えないトラブルです。

ここで保護者の皆様に、改めて確認させていただきたいことがあります。それは、「ネットの世界は、大人の社会と直結している」ということです。

子供たちはまだ、自分の発言がどれほど多くの人に届き、誰かを深く傷つけるかを見極める想像力を十分に備えていません。自動車の運転免許を持たない子どもに車の鍵を渡さないのと同じように、SNSという強力な道具を、事前のルールや見守りなしに与えてしまうことは非常に危険です。子供にスマートフォンを持たせ、SNSを使わせるということは、「その利用に伴う責任を、保護者が一緒に背負う」ということでもあります。我が子が被害者になるだけでなく、ある日突然、誰かを傷つける加害者になってしまうリスクもあるのです。トラブルが起きたとき、責任を問われるのは保護者の皆様です。

子供たちを危険から守るため、被害者にも加害者にもさせないために、ぜひ御家庭で次の「3つの約束」について話し合ってください。

- ・我が家のルールを決める（利用時間、利用する場所、使えるアプリなど）
- ・相手の気持ちを想像する（自分が言われて嫌な言葉は使わない、文字にする前に読み直す）
- ・パスワードや管理、定期的なチェックは保護者が行う（フィルタリングの設定は必須です）

子供たちに「持たせるな」ということではありません。ただ、ネットの世界へ漕ぎ出す我が子に、正しい知識という「羅針盤」と、親の目という「命綱」をしっかりと持たせてあげてほしいのです。学校でも情報モラル教育を継続して行ってまいります。子供たちのスマートフォンの画面を一緒に確認できるのは、保護者の皆様だけです。

子供たちの安心・安全な毎日のため、学校と家庭が手を取り合い、この課題に向き合っていきましょう。御理解と御協力をよろしくお願いいたします。